平成24年度第１回中原区区民会議会議録（概要版）

平成24年度第１回中原区区民会議が開催されました。

会議では、新委員の紹介、正副委員長の互選、専門部会の設置及び専門部会委員の選任の後、「第４期区民会議の審議テーマ」について話し合われました。

会議の内容は次のとおりです。

日時・会場など

平成24年７月20日（金）午後２時から午後４時10分まで

中原区役所５階会議室

会議の傍聴人10名

会議次第

１　開会

２　出席者自己紹介

３　正副委員長の互選

４　会議録確認委員の選任

５　専門部会の設置及び専門部会委員の選任

６　議題

（１）第４期区民会議の審議テーマについて

（２）区民会議の広報について

７　その他

８　閉会

＜（１）第４期区民会議の審議テーマについて＞

・　事務局より第４期区民会議の審議テーマについて説明を受けた後、各委員から意見聴取した。

＜各委員からの意見＞

・　中原区の平成23年度の児童虐待件数は微増している。幼少から小学生までの間に、総合的に、心の優しさ、命の大切さ、とうとさを教え込み、児童虐待を減少させたい。

　防災面では、いつ直下型地震が来てもおかしくない昨今、人命救助等について対策を構築する必要があると思う。

・　中原区は平たん地のため、自転車と高齢者の事故が非常に多いので少なくしていきたい。

中学生の自殺があった大津市の教育委員会と学校の対応は責任逃れに思える。中原区内ではそのような事例はないか、検証してみてはどうか。

・　前期からの継続ではあるが、企業と地域と町がどう連携していけるか、防災の切り口から議論を進められたい。

前期に行った子育てアンケートの結果を生かすべく、区内の子どもの人口増をかんがみ、区民会議でできることを検討してみてはどうか。

・　戦後教育のせいで無責任な大人がふえ、政治家よろしく、無責任な人がリーダーになっている。戦前の道徳等を子どもに教えているのは、ボーイスカウトやガールスカウトぐらいでしかない。子育て部門できちんと正悪を教え、健康な子どもを育てる必要があるのではないか。

・　マンション住民は、町会があるとはいえ、防災が徹底されていない。いざというときの安全・安心への心構えを考えていきたい。

子育て支援の中で食の乱れを直し、コミュニケーションがとれれば、いろいろな問題も緩和されるのではないか。健全な子どもを育てていくためにも、食卓から改善していければと思う。

・　区民会議としての間口は広いと思うが、小杉のような大規模再開発が行われている中では、旧住民と新住民との交流を図らなければいびつな町になってしまう。自主防災組織としても、両住民が交流してこそ機能するものである。安心・安全な町は住民が一丸となって築くものなので、区民会議はそういうところに意見を発信していくべきではないか。行政職員としての立場では言いづらいような意見をどんどん言っていきたい。

・　今現在も新しいマンションが建設されつつある中、新旧住民が交流する場づくりは、１度きりではなく、継続していくべきである。特に子育て世帯をサポートする交流・イベントは住民同士をつなげるものになる。交流の場は情報発信や情報共有の場としても非常に有効なので、その場において中原区の魅力を継続的に伝えていきたい。

・　防災に関しては一歩踏み込んだ対策が今後は必要になってくるのではないか。

中原区は自転車と切っても切れない地区なので、若い世代を含めた交通法規講座のようなものを開催してはどうか。

中高生は、ただ集まっているだけで通報されてしまうなど、健全に遊べる場所が少ない。大勢で遊ぶことも大切な健全育成なので、ぜひ実現させたい。

・　マンション住民は必ずしも自主防災組織をつくっておらず、また、町会に入っていないところも多い。自主的な活動とはいえ、もう無視できないほど集合住宅がふえているので、地域全体で防災への関心を持ち、町会や周辺企業との役割を意識しながら、自分自身で安全・安心に暮らせるにはどうすればよいかを考えるようなネットワークづくりを考えたい。

中原区は歴史や伝統が非常にある地域だが、必ずしも新住民は意識しておらず、単純に便利だから移り住んできている節がある。新住民に文化や誇りに触れてもらえるような機会をつくることで新旧住民の交流が図れればよいのではないか。

・　中原区の現状は、ゴールドラッシュにわいたアメリカの人口移動のように感じる。マンションが林立し、居住空間がふえ、そこにゴールドラッシュのごとく集まりつつある新住民は個を求めて転居してくる方が多いので、コンセプトもなく、求心力が伴わないのでは、地域コミュニティの形成につながらないのではないか。また、マンションの中での自治会活動への参加、既存町内会との連携、連帯に協力してもらえるようなムードをつくらなければならない。そこで、マンションや集合住宅を対象に、町内会への期待や不満、また、なぜ町内会に顔を出さないのかの３点に絞り、社会調査を実施してみてはどうか。いかに自分の生活に密着した町を安心・安全な町につなげていくかという大きなテーマが根底に流れていなければならない。コミュニティの前に向こう三軒両隣（ネイバーフッド）をどう形成していくか、知恵を出し合っていきたい。

・　市内には100カ国以上の外国籍の方が住んでおり、中でも中原区は２番目に外国籍住民が多いと聞く。可能な限り外国籍の方を含めた防災や子育て、教育を考えていきたい。

一番大事なのは、交流、コミュニティである。外国籍の方は情報が少ないため、社会に参加したくてもその方法がわからず、いろいろ問題を起こしてしまっている。それらを解決するためにも、食育や異文化を取り入れることが大事ではないか。せっかく多国籍な住民が住んでいるのだから、互いに仲よく、住みやすい地域にしていきたい。

・　古道中原街道を、予算を使わずに、そのままの姿で残していきたい。市内７区中、街道が区名となっているのは中原区だけである。

・　子育て支援、子育てサポートの意味から、異年齢コミュニケーションを提案したい。10年後、15年後も出生率が右肩上がりとは思えない。一定のラインで出生率がとまると考えれば、今現在乳幼児である子どもが就学し、青少年となることで、問題点や課題点も少しずつ違ってくるのではないか。現状家族間の問題としてとらえられている子どもの問題を地域で考えなければならなくなり、その範囲は区や市へと広がっていくと思う。親世代のライフスタイルの変化とともに、将来は親の介護を考えなければならない。子育て支援を通じ、世代間の抱える問題や生活スタイルの変化から生じる問題を共有しながら、解決に向けたヒントを提供できるような関係をつくっていきたい。

・　東日本大震災後、都市機能が麻痺した自治体の動き方により、被災地の復興や住民の生活再建は大変違ってきている。確かに義援金は必要であるが、専門部会の場では自

治体機能がいかに大切かを訴えていきたい。

・　緑地の保全と防災をテーマとしたい。防災面では、備蓄物品が行き渡らない一因として、例えば消化器などはどこに売っているのかわからないことが挙げられている。商店街と連携をとりＰＲすることで、商店街の活性化にもつながるのではないか。また、消防署員を区民会議に招き、アドバイスしてもらえるようなシステムをつくってはどうか。

・　参与、区職員は、現状、小杉に高層ビルが建設され続けてもよいと考えているのか。市民館が他の大きなビルに埋もれている現状や、ごみ問題、道路問題を、今を生きる我々区民会議が捨ておいてよいものか、一考願いたい。

　文化協会としては、中原市民館と連携し、新住民の方たちに伝統文化を広めて、一緒に取り組むコミュニティをつくっていきたい。また、15年前より伝統文化、楽しい文化の伝承を行っている。

・　防災と子育て支援が２つの大きなテーマと思う。

　防災面からは、東日本大震災以降、各所で会議や勉強会を設け、自主防災組織と町会、民生委員児童委員協議会と連携し、災害時の対処方法の模索や訓練を行っている。民生委員としては、要援護者を把握するための名簿やマップをつくり、活用するための準備体制をしいている。被災地である福島、宮城では、震災時、一たんは逃げ延びた民生委員が担当要援護者の安否を確認しに戻ったところ、津波に流されて、亡くなられたケースから、民生委員は、まずは自分が逃げることを最優先し、その後、しっかり活動するという、災害後、１人も見逃さない運動に考え方がシフトしている。

　子育て支援面からは、社協や民生委員児童委員協議会で子育てサロン、その他さまざまな活動を実施している。現在いじめ問題が大分騒がれているのは、民生委員と学校との連携、交流が図られていないからと考える。もっと進めるべきとは思うが、なかなか厚い壁があり、腹を割った話し合いができていない点も課題である。また、薬物乱用が広まっている昨今、薬物乱用防止教室も社会問題として大変重要である。課題がたくさんある中、１つずつ頑張ってクリアしていくしかないと思う。

・　前期は、防災、高齢者、子育ての問題を２年間かけて審議してきたし、この場でも同じような意見が散見されたが、オールラウンドにすべてを解決することは非常に難しいので、具体的なテーマに絞っていくべきではないか。子育てアンケートから問題点を掘り出すことも必要と考える。

・　子育て、高齢者の問題を考えたい。

　大きな問題点としては、子育て、防災、新旧住民のコミュニケーションが挙げられていたと思う。本日の会議で出た意見や希望を踏まえ、区民会議で取り上げるテーマを運営部会で決定していきたい。

＜（２）区民会議の広報について＞

・　事務局より区民会議の広報について説明を受け、その旨了承した。

＜その他（参与からの提言）＞

・　防災に関しては、我々参与も市議会の中で何かしら取り上げている。食料備蓄、避難所運営会議、帰宅困難者の問題等、緊急に取り組まなければならない問題が山積しているので、具体的にこの場で論議されることを望む。

　小杉でのビルの林立は今後検証しなければならない。区民会議での意見を伺っていきたい。

・　市議会と区民会議相互に取り組みを進めていければと考える。小杉の高層マンション林立の件も、本日の市議会まちづくり委員会で請願、陳情が趣旨採択されている。請願文書等をよく調整しながら前進していきたい。

　区民会議の傍聴者が少ないのが気にかかる。傍聴席が埋め尽くされるような活発な議論が生まれる区民会議となるよう期待する。

・　市民参加型の地方自治を標榜する中では、区民会議の存在は大変重要である。市内他６区の区民会議についてもいろいろ研究はしているが、中原区区民会議の洗練さかげんはピカ一と思う。区民会議の意見が川崎市政、中原区政にしっかり反映できるよう努力していきたい。

　中原区では、消防局と教育委員会を中心に災害図上訓練（ＤＩＧ）を全中学校で実施している。このような先進的な取り組みは中原区から発信され、他区へと広まっている。

　区民会議の認知度の低さが問題となっている。結果、区民会議の意見が市民や区民に通じていない実情の打破に尽力願いたい。

・　区民会議を模した自治制度を他都市でも検討しているようである。住民の活発な意見交換により地域課題を解決し、区政や市政につなげていく手法が大変重要と考える。

　本年３月に発表された川崎市の統計資料によれば、中原区は人口も世帯もふえているが、世帯人口は昨年2.04人、本年2.00人と７区中一番少ない数字であり、高齢者を含めた単身世帯がいかに多いかがうかがわれる。地域、町丁別では2.5人に近い町内会もあるが、いずれにせよ３人には満たない。これは、事実上、全体の比率として子どもの数が減ってきていることを示唆しているのではないか。

　マンションの防災問題は、もう自主性に任せておける活動ではなくなってきている。ある程度、法的、条例的な裏づけを持たせる誘導策が必要と思う。